

覚浄寺総会開催しました

四月二十三日、覚浄寺の総会が開催されました。コロナの感染拡大が心配されましたが、やや下火になったことから無事に開催することができました。門徒の皆さんが顔を合わせることで少なくなっていましたので、開催できてよかったですと思います。

◆ 前住職をしのぶ会を勤めます

総会では、重要な事項がきまりました。まず、年間行事予定について、七月三日の秋季永代経にあわせて前住職を偲ぶ会をお勤めすることになりました。続いて会計報告では、本堂の長期火災保険の更新時期となり、あら



ためて加入したと説明されました。

◆ 澤さんが役員を退任されました

現在の役員のうち、澤智恵子さんが退任されることになりました。澤さんは、お花たてなどで中心的に取り組んでくださったりましたが、足腰をお悪くされたことからご辞退されることになりました。澤さんありがとうございました。

◆ 役員を5人から4人に

お寺の大きな行事がひと段落したことから、役員を現在の5名から4名に変更することになりました。引き続き、田中二郎さん、横井保夫さん、横井忠夫さん、横井豊さん、よろしく願いたします。なお、法要の準備など、門徒の皆さんのご協力をお願いいたします。

◆ 掃除当番表を作り直します

門徒の皆さんが、毎月順番にお寺の掃除をしてくださっていますが、コロナでストップしていました。次号の清浄光で当番表をお配りします。お世話様ですがよろしく願いたします。

5月 皇月

- 五日(祝) 花まつり(中止)
- 二日(土) 降誕会(内勤め)
- 二四日(火) 教区讃仰会(任職)
- 二六日(木) 少年連盟研修(任職)
- 二八日(土) お講 十一時

主な年間行事

- 七月三日(日) 十三時
秋季永代経・平和のつどい
- 前住職(浄楽院釋卓明)を偲ぶ会

十月二十二日(土)
すすはき

十月二十九日(土) 三十日(日)
報恩講

二月十九日(日)
春季永代経

お講を再開します

コロナのため休止していた「お講」を五月から再開することになりました。お斎なしの、短縮開催ですが、久しぶりに楽しく過ごしたいです。

■ 前住職一周忌に寄せて ■

早いもので、まもなく前住職の一周忌を迎えます。昨年の寺総会に出席して発言していたのがつい昨日のことのように思えます。晩年は、デイサービスやヘルパーさんのお世話になりながら、みなさんとおしゃべりすることを何よりも楽しみにしていました。また、最後の最後まで好奇心をもって本を読んだり、浪曲にチャレンジしたり。最後の日には看護師さんに「ありがとう」と言ったそうです。私も、何事にも積極的になれるような歳のとり方をしたいものです。秋の永代経にあわせて偲ぶ会をお勤めさせていただきますので、思い出など語り合っていただければと思います。

■ 谷口住職、ありがとう ■

一乗寺の谷口瑞石住職が急逝されました。同級生であり、お寺の若手リーダーとして期待されていただけに大変ショックを受けています。崇徳保育園の理事長・園長として、またサッカーの指導者としても活躍されました。本当にご苦労様でした、とお礼を申し上げます。ありがとうございました。なむあみだぶつ。



お釈迦さまはヒマラヤのふもとに住むシヤカ族の王子さまでした。あるとき、お城の東の門から出かけました。お城を出るとそこにはお年寄りがいきました。「一年をとると私もみんなもこ

毎年、安食西では五月五日の子どもの日に、花まつりをしています。今年はコロナで中止になってしまい、とてもごんねんです。花まつりでは、お釈迦さまにあまちゃをかけ、ゾウに乗せてパレードをします。お釈迦さまってどんな人だったのでしょうか？

四門出遊(しもんしゅつう)



お釈迦さまは西の門から出るのをやめて北の門に向かいました。北の門にくると一人のお坊さんが歩いていました。お坊さんはお釈迦様に言いました。「生きていれば老いも病気も死の苦しみもさけることはできないのに、人々はそれを気にかけずに日々をすごしています。それに気づいたあなた、世界中の人々を苦しみから救うことができるでしょう。」そういうとお坊さんは去って行きました。

「私、動物も花も、いつか必ず死んでしまうんだ・・・」お釈迦さまは西の門から出るのをやめて北の門に向かいました。北の門にくると一人のお坊さんが歩いていました。お坊さんはお釈迦様に言いました。「生きていれば老いも病気も死の苦しみもさけることはできないのに、人々はそれを気にかけずに日々をすごしています。それに気づいたあなた、世界中の人々を苦しみから救うことができるでしょう。」そういうとお坊さんは去って行きました。

んなふうになってしまつのか・・・」お釈迦さまは悲しくなって帰ってしまいました。次に南の門から出ると、道に病気が人がたおれていました。「なんて苦しそうなんだ。私もいつか病気になってしまつのか・・・」悲しい気持ちになつて出るのをやめてしまいました。次に西の門から出ると、お葬式がおこなわれていました。亡くなった人の周りでたくさんの人が泣いていました。「私も、動物も花も、いつか必ず死んでしまうんだ・・・」

お釈迦さまは29才になったころ、戦争や日照りやさい害で、たくさんの方が苦しんでいました。お釈迦さまは「人々を苦しみから救おう」とちかいをたて、お王子のくらいをすてて、お城をぬけ出し、修行にはげみました。お釈迦さまは6年もの長い修行のすえに、ついに悟りを開いたのです。そしてたくさんの人にほとけさまの教えをといて旅を続けられたのです。お釈迦さまの教えは、やがてたくさん

の国の人々に伝わり、いまでも私たちがみちびいてくださっています。

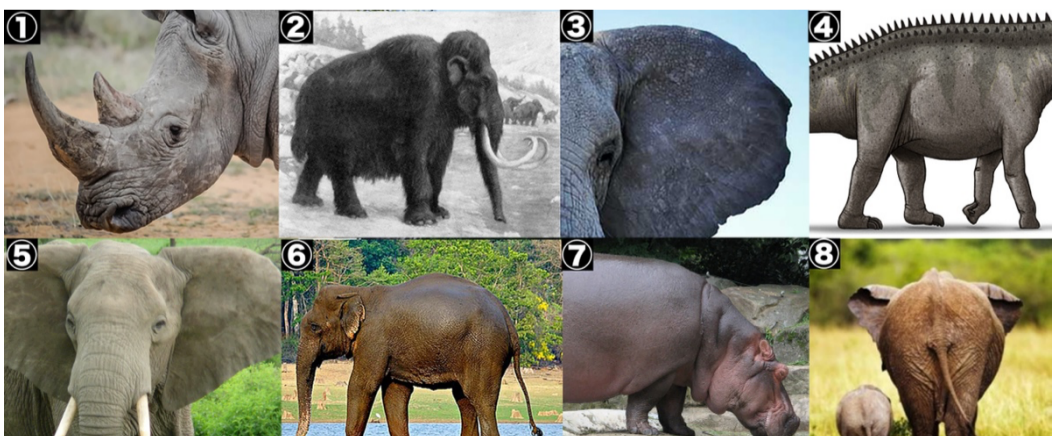
お釈迦さまが29才になったころ、戦争や日照りやさい害で、たくさんの方が苦しんでいました。お釈迦さまは「人々を苦しみから救おう」とちかいをたて、お王子のくらいをすてて、お城をぬけ出し、修行にはげみました。お釈迦さまは6年もの長い修行のすえに、ついに悟りを開いたのです。そしてたくさんの人にほとけさまの教えをといて旅を続けられたのです。お釈迦さまの教えは、やがてたくさん

おとなの方へ

お釈迦さまの教えは、お弟子たちによって中央アジアから中国、朝鮮半島をへて日本に伝わりました。また、スリランカや東南アジアにも仏教は広まっています。いま、アメリカやドイツなどアジア以外の地域でも仏教を学ぶ人が少しずつ増えているそうです。二千数百年を経て、なおその教えが広がっているのです。不安な世の中、あらためて仏様の教えに耳を傾けたいものです。

くじクイズ QUIZ

左の写真で、ゾウは何番かな？



先日の答え

